

都市計画道路整備の効果検証に関する意見書

令和7年9月12日付をもって意見を求められた、都市計画道路整備に関する効果検証に関し、下記のとおり提案・意見を申し述べる。

記

1. 目的

- 1) 都市計画道路の目的は「道路整備」ではなく「より良い都市空間の実現」であるが、現状は整備自体が目的化して見え、反発を招きやすいと考える。
- 2) ゴールとプロセスを区民が納得できる形で示す等、資料の見せ方を改善。

2. 指標の改善

- 1) 整備前提の加点に偏らない設定へ見直す。
- 2) 空気改善量、路面温度低下、滞留空間、家賃変動など効果量を測る指標を追加。
- 3) まちの魅力や機能を示し、その地域らしさを可視化。

3. まちづくりと魅力の維持

- 1) 防災性を向上させ、それと合わせてまちの魅力を維持する方策も提示するとよい。
- 2) 歩車分離や海外事例等を示し、杉並の将来像を具体化。

4. 評価と区民参加

- 1) 整備の可否が焦点になりがちだが、本来は「整備後のまちの姿」を焦点とすべき。合わせて、プロセスも評価対象とするとよい。
- 2) 区民参加で指標を作り、納得感を高める。
- 3) 道路整備を実施した場合、そうでない場合のいずれにおいても、「良い未来」と「悪い未来」があり得るし、その成否は、計画に関わる人や、そのプロセス次第で変わる。ポジティブな未来像とともに、その実現過程に参加することが、賛成派、反対派双方の納得感を醸成するのではないか。

以上

東京女子大学現代教養学部経済経営学科
地域デザインコース 靱山 真人

都市計画道路整備の効果検証に関する意見書

令和7年9月8日付をもって意見を求められた、都市計画道路整備に関する効果検証に関し、下記のとおり提案・意見を申し述べる。

記

1. 効果検証の進め方

- 1) 区民参加の場では、利害に左右されない一般的な意見を引き出す工夫が必要。
- 2) 無作為抽出による区民意見聴取や指標作成は、混乱の可能性もあるが検討に値する。

2. 指標の設定・活用

- 1) 整備前提ではなく「失われるもの」も数値化し、効果のマイナス面も示すことで議論がよりバランスのとれたものになると考える。
- 2) 防災など数値化しやすい指標が過大評価とならないよう重みづけを設定・調整し、区民意見を反映する仕組みが望ましい。
- 3) 広域的視点と地域的視点を整理し、双方の意義を明確化して議論可能な形にする。

3. 区民参加

- 1) 指標づくりから区民を巻き込み、「自分たちで作った指標」として共有する。
- 2) 反対意見も踏まえた論点整理を行い、防災効果以外の論拠も示す。

4. 生活再建・まちづくり

- 1) 金銭補償に限らず、代替地提供など複数メニューを示し、道路整備を総合パッケージとして提示して市民の合理的な判断の材料とする。
- 2) 誰がどの程度利益・負担を受けるかを指標で可視化し、不公平さを意識しながら検討を進められるようにする。

以上

東京都立大学 都市環境学部
都市政策科学科 饗庭伸